

2011 年度 森基金 外国語電子教材作成補助

デザイン戦略（アンビエントメディア） 田中浩也

1. 概要

デザイン戦略（アンビエントメディア）は、単にデザインやものづくりをして終わるだけではなく、そうした行為と不可分である社会性や批評性、あるいは循環型社会に資する環境志向のまなごしを養い、デザインにおける「WHY」の問いを深めることを目的として開講している。また、近年「パーソナル・ファブリケーション（工業の個人化）」という考え方が登場し、デザイナーやものづくりに携わる人々にも、新たな「戦略」が求められている。ここでいう「戦略（戦略立案）」とは単なる経済性追求のことではなく、デザインという技法を使って社会に対して何をなすべきかという本質的な問いを立てることを意味している。より問題解決指向の強いデザインの文化が新たに立ち上がりつつあり、さらにそれがウェブの「シェア」の文化とつながって大きな潮流となりつつある。そのような状況において、本年度の授業では、近年の「パーソナル・ファブリケーション（工業の個人化）」の状況を、「デザインのオープンソース化」と「マテリアルの分解とリミックス／リデザイン」の2点から解説し、その社会性について吟味した後、演習を通じてそれぞれを実践することとした。

2. 電子教材の作成

今回、FabLabJapan と協力して、デザインのオープンソース化を促すプラットフォーム「FabSource」(<http://fablabjapan.org/recipe/>)を開発し、この授業でその試験利用を行った。クリエイティブコモンズライセンスを使用し、レーザーカッターで加工するためのデータと、そのプロダクトのドキュメントを投稿することで、ほかの創り手と共有することができるようになった。また、授業で扱ったレポート課題と制作課題をまとめるウェブサイトを作成した。本科目は2012年以降、英語で開講する予定であるが、このウェブサイトはその雛型となるものである。他にも、ファブラボオランダで開発されたプラットフォーム「UnLimited Design」(<http://unlimiteddesigncontest.org/>)や「FabMoments」(<http://fablab.waag.org/fabmoments>)とも連携して、オープンソースデザインの実習を行った。

3. 「ものづくり工房」のレーザーカッターの利用方法の解説ムービー

http://fab.sfc.keio.ac.jp/lab/?page_id=351

も作成した。本講義は「ものづくり工房」と強く連動している科目の一つであるが、次年度は、レーザーカッターで生まれた端材のリサイクル、リユースのガイドラインを生み出していくことを目標としたいと考えている。